

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600156		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき岩倉・小規模多機能ホームみさき岩倉		
所在地	京都市左京区岩倉中町380		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成27年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみさき岩倉・小規模多機能みさき岩倉では、入居者様・利用者様(以下入居者)に対して、スケジュールを特に決めず、ゆっくりと一日を過ごして頂いています。お天気で気候が良ければ、近くの公園に散歩に出てたり、近くのスーパーに買い出しに行ったりと自宅を過ごしていた時と同じような、ありのままの生活環境を提供させていただくことによって、日常の目に見えないストレスの緩和ができていないかと考えています。また当施設では園芸療法を導入しており施設敷地内で家庭菜園を実施しています。入居者と職員と一緒に植物を育てる楽しさや収穫する喜びを分かち合う事により、入居者それぞれの役割が持て、外出をするきっかけにもつながっています。入居者が植物や農作物と触れ合う表情は穏やかですので、認知症緩和ケアの一環として今後も園芸療法を継続していきます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は区画整理された閑静な住宅街に位置し、半径百メートル内にスーパー、銀行、交番、公園があり、住み易い生活環境に恵まれています。地域に根ざした地域支援や認知症の理解を深める取り組みに特化した包括支援センターの協力や助言を受けながら、地域住民に事業所への理解が得られるようにと職員一丸となって日々努力しています。自治会の加入まで至っていませんが、近隣在住の職員が多いことで地域の情報が得やすく、地域の祭りや行事に入居者と共に参加しています。家庭菜園を実施することで入居者と職員が協働して農作物を育てる喜びを分かち合っています、又毎日成長する姿を見るため戸外にでる機会が増えています。独自の「職員チェックシート」を活用することで、資質向上や意欲向上を目指した努力を職員が自発的に行えるような体制が整っており、給与にも反映され

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まずは法人の理念を理解してもらい、施設独自の理念を作成していく予定。	法人としての理念を掲げ職員に周知することで実践に取り組んでいます。事業所独自の理念は職員の意見を反映し現在検討を重ねています。又、個別ケアを重視した「本人本位」の視点で、ケアが実践されています。	法人としての理念を全職員で周知し、独自のチェックシートを活用することで振り返りも実施されています。ケアの統一を図る上でも早急に事業所独自の理念を作成・掲示されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	6/29、明德児童館安心サポーターと地域探検でスタンプラリーの場所としてみさきに来てもらう。入居者と交流を図る。 10/11認知症カフェに入居者様2名参加しました。	包括支援センターの協力を得て、児童館の認知症サポーター養成講座や認知症カフェに参加し地域とかかわりを持つ努力を行っています。職員からの情報を得て、入居者と共に小学校行事や地域の祭りに参加しています。	事業所の行事に家族ボランティアの協力が得られています。今後事業所の取り組みなどを盛り込んだ広報誌を作成し、入居者と共に配布されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の中には施設に対して拒否感があり、これからの課題である。 地域の自治会長には挨拶済みだが、自治会には加入できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議では、包括、民生委員の方に、他の施設などはどういう取り組みを行っているか意見を聞いている。	2か月に1回本人・家族・包括職員・民生委員の参加を得て開催しています。現状報告に加えて中学生の職業体験として事業所を提供してはどうかという案が検討されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	まだ役所との関係は薄いため、これから情報などを頂けるように要請していく。	行政への報告として役所へ運営推進会議の議事録を郵送で行っています。地域ケア会議に毎月出席することで、地域包括支援センターから助言や協力が得られており、連携体制は構築されています。	運営推進会議の議事録を入居者とともに役所の窓口届けることで、顔の見える関係作りをされてはいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修、法人での勉強会、アンケートや実際にあった事例などを掲示し、理解を深めている。玄関は防犯上施錠している。	身体拘束・虐待委員会を発足し、2か月に1回研修が実施されています。研修後はレポートを提出することでより理解を深めるよう努めています。特にスピーチロックをしないように配慮した対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尿取りパットの重ね付けなど、虐待と感じにくい事例を用いて勉強会を行っている。また、法人での勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見人から情報を得て、必要と思われる入居者に対して、制度利用を行政担当者(CW)共に利用促進を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かり易く丁寧に説明し、伝え漏れがないよう確認表を用いて、利用者様・家族様が納得した上で、契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理簿を作成、ファイリングを行っている。全スタッフへ周知し、また、運営推進会議時に開示している。	意見箱が設置されていますが、家族の訪問が多いことで、随時要望や意見を聞き取ることができています。入居者、家族の要望を受けて、昼食時にテレビを消しBGMを流して、心地よい時間を過ごす取組みが実施されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内職員会議を月に1度実施し、業務の改善点疑問点を話を行い、業務改善につなげている。また、法人内で他施設管理者と合同での管理者会議も行っている。	管理者は半年に1回職員面談を実施、独自の「チェックシート」作成時にも常時間聞き取りを行っています。月1回職員会議を開催することで情報を共有し、意見や提案を聞き取り業務の見直しを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し、半年に一度管理者が面談、その内容を本社に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人作成の業務チェックシートを配布し介護スキル等の職員個々の技量の把握を行い、その都度研修を行っている。また京都市の介護研修のお知らせ等を職員に周知させ、研修参加への促しを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターに確認したが、今後左京区でも施設会という形で集まりを持ちたいとの事。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談、ケアプラン作成時に本人の意向を聞いている。また、居室担当を配置し、より細かいケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談、施設見学、入居契約時、初回ケアプラン作成時に家人に説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ、初回面談の際に聞き取りを行い、ニーズに合っているか、当施設に合っているか検討を行い、もし合わない場合は他サービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることは認識しているが、関係の構築はこれからである。 これまでも食事の準備などを協力して行う事はしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人様へは月に一度ご様子をお伝えする手紙を出している。その際に施設行事の告知を行い、参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人様からの聞き取りを元に、本人、相手の拒否が無ければ出かけるように努力する。	家族協力を得て馴染みの理容室や教会礼拝へ出かけています、又教会の友人が来所されるなど関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を観察しながら、必要となれば適所な席替えを行ったり、ソファでリラックス出来る空間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内他施設ではあるが、長期入院の為一旦退去されても、再入居できる状態であれば再び再入居されている事例あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に思いを聞き出している。また日々の会話の中で要望があれば、生活記録に記載し、食事や外出内容に反映させている。	3か月ごとにアセスメントを丁寧に行っています。本人の思いを日々の会話の中から、又表情から汲み取ることで「本人本位の視点」を大切にしています。家族からの情報を得て、趣味の編み物が継続できる支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談でケースワーカーやケアマネなど支援に携わった方から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度モニタリングを行い、変化があれば再アセスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスの際に家人、主治医からも意見をいただくようにしている。	毎月独自のモニタリング表を活用して評価を行い、随時担当職員を交えたカンファレンスを実施することでケアプランの見直しを丁寧に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1枚の生活記録であり、24時間対応であることから、1枚でその日1日の様子が把握できるようになっており、入居者の状態変化があった際には、計画作成担当者に報告を行い、ケアプランの変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たな支援方法を考えていく必要性は感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加(当日雨で中止)近くのスーパーまで、散歩を兼ねて買い物に出かけている(朝食材料など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間連絡体制の取れる提携医療機関に必要な際情報提供を行っている。入居前のかかりつけ医に通院される場合は家人様に協力いただいている。	入居時に説明を行い、家族協力でかかりつけ医を受診されていた入居者も現在は協力医療機関へと移行されています。協力医療機関の担当医師とは24時間連携が取れる体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関との医師との連絡相談体制があるが、看護師との連携は弱い。但し、介護職員に看護師資格を保持する者がおり、必要時に相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に訪問し、担当の相談員などから情報の把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針について説明を行い、同意を得ている。	入居時に重度化の指針の説明を行い同意を得ています。職員2名が準看護師の資格を持っており、看取りに向けた職員の意識も高く、現在看取りの研修を計画しています、又協力医療機関の医師との協力体制も構築されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を各事務所に掲示。また内部研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間想定・夜間想定消防避難訓練を各1回ずつ実施し、ハザードマップを掲示するなどしている。	消防署・消防団の協力を得て年2回消防訓練が実施されています(12月に夜間想定で実施予定)。玄関には地域のハザードマップが掲示され、職員緊急連絡先一覧を作成し、運営推進会議でも説明を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には業務チェックシートを活用させ、自己のケアの振り返りを常に行わさせている。	事業所の年間計画に研修が組み込まれ、又外部研修にも参加し職員に伝達研修が実施されています。「チェックシート」を活用することで、自己評価や自己分析を行い、自身を振り返ることで「本人の思いにそったケア」を実施しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方でも選択ができる言葉かけを行い、なるべく自己決定していただけるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、自己決定されたことを尊重させていたがっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日着る服やお化粧など、自己にて決定できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、出来る範囲で協力していただいている。	業者に委託してメニューが作成されていますが、行事食や入居者が希望するときは随時アラカルトメニューとして対応しています。入居者のできることを大切に下さりえや盛りつけ・食器拭きなどのお手伝いが自然に行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血液検査などのデータを元に、主治医と栄養状態の確認を行い、食欲不振の場合には補助食品や本人が欲しいものの提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。また週に1度訪問歯科があり、口腔ケアに関する技術を入居者・スタッフに指導してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレに行っていただけのような支援している。場合によっては2人介助も実施している。	排泄チェック表を活用せずに、入居者個々の生活記録を確認して、できるだけ自分でトイレに行くことができるようにタイミングや声掛けの仕方を工夫した自立支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、気候が良い時には散歩など運動不足の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3日入浴できるよう支援している。本人の希望により時間帯や曜日を変更している。	入居者の希望を聞き、週3回午前、午後を問わずに、入居者個々の希望にそった支援を実施しています。入浴を拒む入居者には声掛けを工夫したり、曜日変更を行うなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の希望や声掛けにて意思確認を行い、短時間の臥床を促している。また週1回のシーツ交換を行い、清潔・快適に眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者と主治医によって毎回確認している。変更があった場合はファイルに記載し、周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家人や本人からの聞き取りを元に、習字や折り紙、編み物など得意なものをしていただけるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日に1回は外気浴が行えるように支援している。外食などは家人の協力のもとで支援している。	朝食の食材を購入するために入居者と一緒買い物に出かけています、又入居者の希望を聞きおやつや飲み物を購入するため日々外出支援を実施しています。家族の協力を得て旅行も楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方はお任せしている。希望時は施設の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や、レクで作った作品を飾っている。毎日掃除を行い、清潔を保っている。またテレビの音量やスタッフの声の大きさにも注意している。	採光はカーテン越しに柔らかい日差しとなり入居者が心地よく過ごせる環境となっています。行事の写真や入居者の作品も程よく飾られており、BGMやテレビ音量、職員の声の大きさを配慮することでゆっくりとした時間が流れるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルのほかにソファを設置、少人数で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面談、入居時になるべく使い慣れたものをもってきていただくよう説明している。	ベッドは据え置きのものとなっていますが、使い慣れた馴染みの調度品を設けることで、入居者が心地よく過ごせるよう配慮されています。馴染みの家具が準備できない入居者には、職員が似顔絵を描いてさりげなく飾ることで、温かい居室づくりを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではあるが、本人の生活動線が妨げられないよう動線の確保を意識している。		